



海外研修旅行

(北京3泊4日の旅)

去る10月9日～12日まで、毎年恒例の海外研修旅行「北京3泊4日の旅」に行ってきました。羽田空港から約3時間のフライトで北京に到着、さすが中国、北京空港の広さには驚きの声、早速バスで市内観光に出発、世界遺産の故宮の全景が一望できる景山公園を訪れました。あいにく北京のお天気はどんよりした曇り空、故宮も霞んで見えましたが絵のようで情緒がありました。



北京 景山公園にて

2日目は朝からあいにくのお天気の曇り空、北京北駅から2008年8月に開通した長城号にて万里の長城を目指して、特急列車に乗り約1時間、八達嶺駅に到着し、長城入り口までバスで行きました。激動の中国を2500年見続けた万里の長城は「それは凄い」の一言でした。



万里の長城にて



*万里の長城（八達嶺）…周の時代、北方の異民族侵入を防ぐ目的で建造され、後に秦の始皇帝が長城を連結し、西方に延長した。その際、莫大な費用と数百万人の民衆が労働力として酷使された。東西全長6,000km。3日目は、朝から晴天に恵まれ、まずは世界最大級の広場「天安門広場」へ、この広場は毛沢東が新建国宣言した国の象徴で50万人が集合可能。周囲には、人民大会堂、中国国家博物館、人民英雄記念碑、毛主席記念堂が建っており、中国全土から人々が訪れています。特に毛主席記念堂には中国内陸部から農民団体が2～3時間待ちの状態で参拝に訪れているそうです。天安門広場を後にして、次ぎに世界遺産の故宮、清代の皇帝の壮大な離宮跡を

見学、故宮博物院はかつて「紫禁城」と呼ばれた明・清代の宮殿、「紫禁城」は、天帝に代わり地上を治める皇帝の住む宮殿の意味で、明の永楽帝が14年間かけて完成した建造物、映画ラストエンペラーの舞台にもなった場所でもあります。明・清代の約五百年の間、24人の皇帝が中国全土への統治を行った所であり、1947年、政府は皇帝薄儀の退却とともに紫禁城を「故宮博物館」と名付け、歴代皇帝の収集文物を管理、1987年にはユネスコの世界遺産に認定。



人民英雄記念碑



天安門広場

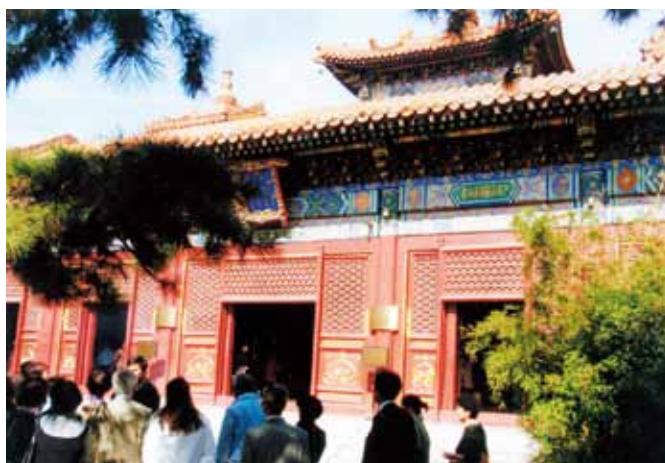


故宮博物院内 乾清宮

次に訪れたのは、頤和園を見学、ここは、北京市の西北10kmに位置し、清代の乾隆帝が自らの思想や趣向で1570年に造園した。西太后が巨額を投じた中国皇室庭園であります。大きな人口湖（昆明湖）の周りには、仏香閣、玉蘭堂他かなりの建造物が多数あり、全部見学することは出来ませんでした。



頤和園(いわんえん)内 仏香閣(ぶっこうかく)



チベット仏教寺院

夕食は、北京市内で名物の「北京ダック」に舌鼓、その後、京劇観賞、2000年の歴史を持つ「東方のオペラ」、皇帝の生誕祝賀公演が始まりといわれているそうです。

最終日の午前中は、チベット仏教の寺院を見学し、午後は空路、帰国の途につきました。

今回31名の参加を頂き、有難うございました。